

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
気づき、考え、実行する子どもの育成 ～博愛の里 伸びゆくわれら 中小っ子～	1. 基礎学力の定着、活用力の向上を目指す。【学力向上】 国語科を中心として「伝え合う力を高める」研究を行う。 2. ボランティア活動や地域との交流活動を通して、自己肯定感や有用感を培い、夢や自分の意見を人前でも堂々と自己表現できる児童を育てる。

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**① 基礎学力の定着、活用力の向上を目指す。【学力向上】**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	提言学校関係者評価委員会から (意見や提言など)
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着と自己学習力の育成	・ 自分の考えをもち、分かりやすく伝える児童を育成する。また、学力向上につながる授業改善に努めていく。 ・ 学校と家庭が連携し、家庭学習の習慣を定着させる。インターネット等の使用時間やそれに伴う睡眠時間も合わせて、改善に向けた指導を強化していく。目標時間達成児童を90%以上にする。	・ 国語科の校内研究を深め、授業に言語活動を積極的に取り入れる。 ・ 「家庭学習がんばろう週間」を偶数月に設定し、目標学習時間だけでなく、内容を吟味する。 ・ 効果的なノートづくりに取り組ませる。	B	・ 「家庭学習がんばろう週間」は、回数を重ねることに、目標時間を達成できる児童が増え、意識の高まりが見られた。 ・ インターネット・睡眠の時間は、取組期間中は意識高く取り組んでいるが、休日等の利用時間・就寝時間は改善が必要。	・ 今年度引き続き、「家庭学習がんばろう週間」を偶数月に行い、学習習慣の更なる定着を図る。 ・ 自学の取り組み方等のモデルを示し、時間の達成だけでなく、内容の充実につなげる。	・ 昨年度より先生方の授業改善の熱意が感じられ、どの学年も学力が向上している。 ・ 1月30日の6年生の発表から、国語「伝え合う力を高める」の学習成果が発揮され素晴らしい。地域の方々からも高評価の声を聞くことができた。 ・ 誘惑の多い家庭での時間ですが、川中校区の部会で取り組まれている成果がアンケートでの姿であろうと思います。日々の家庭学習の習慣づけは特に保護者の協力なしではできないこと。ぜひとも今後も続けてほしいと思います。 ・ 12月学力調査で上昇しましたとの報告がありました。授業参観でも学習態度が良く、とても良い雰囲気でした。 ・ 評議員会で秋田県東成瀬村立東成瀬小学校を紹介しましたが、人口2500人の小さな村が何年も日本一学力の高い学校だそうです。 ・ 学年それぞれの頑張りが見えるが、5年生の学力が県平均より全ての教科において下回っているのが気掛かりであるが、学習環境に課題があるのか、平均値で表すところなのか、個々の躰きに対する対応をよろしく願いたい。 ・ 4: 良くあてはまる
学校運営	○教職員の資質向上	研究授業・職員研修の推進	・ 校内研究を推進し、全員が研究主題に基づいた研究授業を行う。 ・ 特別支援教育、生徒指導などの職員研修を年間3回以上行う。	・ 研究授業を年間計画に位置づけ、外部講師を招聘し研修会の質を高める。新に、環境整備部を新に設置し、中川副スタイルを作る。 ・ 必要に応じ、随時巡回相談等を活用し、職員一人ひとりの研修を積む。	A	・ 支援計画を作成するとともに自己肯定感を高める取り組みを各学年で実施することができた。	・ 子どもたちの自己肯定感を少しも高める手立てとして、GWTなどの取り組みができるよう紹介することができた。今後も推進していく。	・ 児童の学習態度がよくなっていく。算数ノートの宿題から児童の理解度が高まっていることが分かった。個々に渡って先生方の指導が行き届いていると思う。 ・ 資質の向上には、研究授業・研修会が欠かせません。働き方改革の推進と矛盾するように思われがちですが、無駄を省き効率良く取り組みを両立します。教師集団がまとまり多様な児童も伸びると信じています。 ・ 4: 良くあてはまる

**② ボランティア活動や地域との交流活動を通して、堂々と自己表現できる児童、自分に自信がもてる児童を育てる。**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	提言学校関係者評価委員会から (意見や提言など)
教育活動	●心の教育	ボランティア活動の推進 特別支援教育の充実	・ ボランティア活動を通して「気づき・考え・実行する」を行動化させ、「できた」といえる児童を80%以上にする。 ・ 児童の実態を把握し、一人ひとりに応じた適切な支援を行う。	・ VS週間の強化、美化活動、ごみ拾い、花壇の花の管理を日常化させる。 ・ 活動の意義を振り返らせたり、地域からの声を児童に返したりすることで、児童の自己有用感を高める。 ・ 1月1日の生徒支援会議で実態把握、支援の共通理解を図る。個別の支援計画を作成し、具体的な支援内容を決め、実践する。	B	・ 年3回のVS週間を実施し、児童同士で認め合うことで積極的に活動することが出来た。 ・ 地域との交流は、悪天候のため実施することが出来ず、各学年での活動になったが、各々進んで美化活動に取り組むことが出来た。 ・ 全職員での児童の現状の共通理解し、支援策を考えていくことができた。	・ 日常生活の中で「気づき・考え・実行する」を意識した行動ができるまでには至っていないので、来年度の目標も活動の意義を振り返らせたり、地域からの声を児童に返したりすることで児童の自己有用感を高めたい。 ・ 特別な支援がある場合などは、ケースに応じて支援会議を開き、専門機関からのアドバイス等を入れて実施することができた。臨機応変、支援していく。	・ 特別支援学級の2人の児童が、それぞれ伸び伸びと学習していました。嬉しい姿でした。きっと所属する学級のクラスメートとの関わりも上手いことできていることでしょう。卒業を目前としたF君の頑張りもまた見守っていきたいです。 ・ 心の教育については、「気づき、考え、実行する」の伝統的な教育方針が貫かれており、思いやりのある心豊かな子供たちが育っており、先生方に感謝しております。 ・ 青少年赤十字の一員としてボランティア活動などもすすんで取り組んでくれている。 ・ 4: 良くあてはまる
教育活動	●いじめ問題への対応	道徳教育、人権・同和教育の充実	・ 特別な教科「道徳」を充実させる。 ・ 「いじめ・命を考へる日」を中心に児童の人権意識を高める。 ・ 心のアンケートの「悲しかったこと・嫌だったこと」の項目の記載を減らす。	・ 人権・同和教育の視点を取り入れた教材による道徳の授業実践に取り組む。 ・ 支援会議の見直しにより、「〇月のころ」の活用や気になる児童について広げていく。	A	・ 年3回の人権教室の実施と各学年でのGWTや部落問題学習に取り組むことができた。	・ 「〇月のころ」の情報共有や報告の定着と各学級で実践しやすいように資料提供を続け早期発見に努めていく。	・ 学級や校内の掲示物を拝見すると、先生方が一人一人を大切に支援されていることが伝わってきた。 ・ いじめ問題は起きるはずのない学校と理解しています。外部の意見に惑わされることなく学校の指導方針を貫いてください。 ・ 3: やや当てはまる。「子供たちの会話をよく聞ける環境を作る」
教育活動	●健康・体づくり	健康増進・体力の向上 運動に親しむ習慣の育成	・ 保健便りを月1回発行し、その時々を家庭に啓発する。 ・ 食事の意義を理解し、朝食の喫食率95%を維持する。 ・ 休み時間の外遊びを奨励し、なわとび等で児童の体力アップを図る。	・ 早寝早起きや規則正しい食生活についての指導や、掲示等による啓発を行い、家庭を巻き込んだ対策をとる。 ・ スポーツ大会や「さがんキッズスポーツチャレンジ」等で、「投げる運動」に積極的に取り組ませる。	A	・ スポーツチャレンジでは今年も県内のたて割り班で1位になる素晴らしい記録ができた。投げる運動は5・6年生を中心に行われていた。しかし、中ではまだ浸透できていない。	・ 中っ子オリンピックやスポーツチャレンジを通して1年間スポーツに親しむ事ができた。児童主体で行っていくよう計画したい。	・ 男女仲良く、また、異学年交流がよくなっている。卓球台の設置はいいアイデアだと思ふ。 ・ 健康・体力づくりについては、異学年交流での遊びの中で自然に育っているようで、頼もしい思いました。縄跳び大会では優秀な成績を収めていて伝統的に誇りに思っています。 ・ 4: 良くあてはまる「運動の基礎である準備体操(ラジオ体操等)を十分習得させること」
学校運営	●志を高める教育	「博愛の里子どもづくり」の推進	・ 中川副まちづくり協議会・老人クラブ等との連携を深め、郷土愛を育てる。 ・ 佐野常民生誕の地に生まれ育ったことを誇りに思う児童を90%以上に、夢をもって自分を語る児童を80%以上にする。 ・ 小中連携、幼小連携、幼小・小・中間の教職員の情報交換・共通理解をもつ。	・ 歴史について学習を深めている高学年の意識が高いが、下学年にも親しみやすいやり方で取り上げていく。 ・ 全ての教科、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・ 児童の意識調査では「歴史や佐野先生について学習したことを通して中小のことを自慢に思う」と答えた児童は89%、「前向きに夢をもつことのできる」と答えた児童は94%であった。 ・ どの学年においても教科や学校行事を通して、夢や目標について考えることができた。	・ 下学年でも佐野祭りやフリー参観での「三津津海軍所発掘調査から」に参加することで郷土について愛着をもてるようになってきている。今後も発達段階に応じて学習を積み重ねていく必要がある。	・ まちづくり協議会に所属しているが、地域と学校との連携はよくできていると思う。学校の年間行事にまちづくりで協力できるところは積極的に協力していきたいと思う。 ・ 志を高める教育は、まちづくり協議会、老人会などの交流で、郷土愛が育まれている、今後一層地域と協力して取り組みたいですね。 ・ 地域との交流も盛んで郷土を誇りに思ってくれている児童が多いのはとても喜ばしいと思う。 ・ 4: 良くあてはまる
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者・地域社会と学校の連携強化	・ 授業参観や学級懇談会等の行事への参加率を80%に上げる。 ・ 学校便り発行を月に1回以上行う。 ・ ホームページの更新を随時行い、活動の様子を知らせる。	・ 必要に応じ、通信や文書での案内に加え、メールで臨機応変に知らせる。 ・ 保護者や地域に広くアピールしていきけるよう、HPの更新に努める。	A	・ 2月の授業参観の参観率が81%で目標を達成できた。 ・ 学校便りは11号まで発行でき、HPも頻りに情報更新した。また、ことあるごとにメール配信を行い情報提供した。 ・ 保護者アンケートでも93%の保護者が「学校は広報に努めている」「学校便りやHP等で分かりやすく発信している」と回答していた。	・ 来年度も今年並みに保護者・地域社会と学校の連携強化に努めていく。	・ わくわく合宿は参加者が多く、子どもたちの活動は楽しそうだった。宿泊を通しての集団生活の基礎作りが協力できてよかった。 ・ 開かれた学校づくりは、家庭の理解が不可欠の要件だと思います。家庭と学校が共通の課題をもち信頼感で結ばれていなければなりません。家庭学習の習慣化等共通課題に取り組めば、学校・家庭ともに開かれる。 ・ 幼保や中学との連携も密で児童たちもギャップを感じないでいるように思う。 ・ 4: 良くあてはまる

**③ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	提言学校関係者評価委員会から (意見や提言など)
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・ 各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について前年度一人平均246時間を、20%減の196時間にする。	・ 職員会議の回数を減らし、職員連絡会を充実させる。また、ペーパーレスで行う。 ・ 通知表の所見等、自己で責任をもって行い、下書き提出を最大限減らす。 ・ 個々人が業務の効率化を意識するよう、退勤時刻を視覚化する。 ・ 年休の計画的取得ができるように、研修、学校行事等を工夫して設定する。	B	・ 本年度は10月に「人権・同和教育実践交流会」が当たっていたので、それにかかわる時間が多く必要であった。小さな学校で研究発表等が当たるとその分の負担が大きい。 ・ 新任講師、新任教務と、慣れない業務で準備等にかかる時間が昨年度より増加した。昨年度17.1%削減していた分が相殺された感がある。	・ 各人の効率的な仕事の処理にむけ意識改革を図ってきた。来年度から法が施行されることを受け意識は醸成されてきている。本校は少人数学級でもあるため、実践につながるよう今後も引き続き全職員で業務改善に取り組んでいく。	・ 先生方の仕事量が行き過ぎた業務とならないよう、健康管理を第一にして、日々の業務に励んでいただきたいと思います。 ・ 先生方の労働時間が長いのが気になっている。働き方改革が実態に即しているのか、人材確保や事務効率(IT化)など不足部分が気掛かりである。 ・ 4: 良くあてはまる

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**

学校運営者・教育活動についての感想・気づき	学校に対する意見や提言
<p>・ 志を高める教育では、上記の結果にプラスして、「児童自身に考えさせる場、表現させる場を多く与える環境を作っていくこと」「目に見える形で児童を褒めること」を教職員全員で実行したことで、自己肯定感の全校平均が2.9点/4から3.1点/4となり、学校生活に満足している様子がうかがえ、自尊感情を高めることができた。今後も「佐野常民先生の生誕地」であることを誇りに、地域の皆様と、志高く夢を語る児童を育てていきたい。</p> <p>・ 昨年度よりは向上しているとはいえ、学級の結果が県平均に届いていない学年があった。指導が困難な学級には、2学期から校内組織体制を工夫し、1日2時間2人体制という手厚い体制を整えた。また、機をとらえて関係職員で支援会議もつたりしたことで、少しずつではあるが落ち着いた授業態度になった。</p> <p>・ 市の人権・同和教育実践交流会を無事に実施し、好評を博すことができた。今後も様々な取り組みで児童の心を育てていきたい。</p>	<p>・ 少ない人数で清掃が良くできていると思う。校内がいつも綺麗である。 ・ 今年度は5・6年生の読み聞かせをさせてもらったが、本当に聞き上手である。本の力を借りて、来年度も読み聞かせを通して児童の成長の手助けをさせていただきたいと思う。 ・ 花いっぱい学校である。花壇の手入れが良くなされていく縦割り班の活動の成果がうかがえる。 ・ 数名の学習態度には驚きました。先生は淡々と進められていましたが、参観者のいないときはどうしているだろうか、給食時間はどうなっているのだろうかなど、独り思い、発言できず失礼いたしました。是非、諸活動へ具体的な手立てを講じて、残りの時間を良いものにしていただきたいと思います。よろしく願っています。 ・ 中川副小校区は佐野常民の博愛精神が随所に見られてまとまりがあり、郷土意識の高い町と感じています。そういう生き方の基本となるのが中川副小学校教育だと思います。ほとんどの方が学校を眺めながら生きておられます。校長先生はじめ諸先生方の尊い教えがお年寄りの暮らしの中にも思っているようにです。地域住民は小学校の応援団のようです。何かありましたら皆で手助けします。遠慮なくお申し付けください。 ・ 道で会っても店舗で会っても中小の児童はよく挨拶をしてくれていて嬉しい。</p>